

令和 2 年 5 月 23 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16H03578

研究課題名(和文) 現代アメリカ外交の「視座」形成過程をめぐる複合的研究

研究課題名(英文) A comprehensive analysis of contemporary US foreign policy - Historical assumptions and perspectives

研究代表者

西崎 文子(Nishizaki, Fumiko)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：60237691

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,250,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、現代アメリカ合衆国の外交政策の形成過程や対外行動のありかたを理解するために、その依拠するさまざまな「視座」がどのように誕生し、どのように培われてきたかを研究するものである。とりわけ、政策決定者・指導者層の持つアメリカ合衆国に対する「自画像」のもととなってきた歴史認識や、第二次世界大戦後の合衆国と諸地域・諸機関(アジア、中東、国際連合など)との関係の中で形成されてきた対外行動のパターンなどを分析することによって、現代アメリカ外交の行動原理の理解を深めることを目的とした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、アメリカ外交史・外交論の分野では、グローバル・ヒストリーの興隆や、ディシプリンを越えた視点から様々な事象を解釈しようとするアプローチの活発化も手伝って、豊かな研究成果が生まれている。しかし、アメリカ外交の「現在」を見据えながらその思想的・イデオロギー的状况を分析する際に、これらの成果が十分に活かされているとは言い難い。本プロジェクトは、アメリカ外交の「視座」がいかに形成されてきたかを、歴史、国際政治学、国際法学や政治哲学などの多様なディシプリンをを用いながら、長期的視点からときおこし、その作業を通じてアメリカ外交や外交論争の「現在」についてより深く探究したところに意義がある。

研究成果の概要(英文)：This project aims to analyze the process with which various U.S. foreign policy perspectives have been formulated, transmitted, and transformed in recent U.S. history. It poses questions such as how policymakers and intellectuals defined the role of the U.S. in international history; how they perceived, judged, and interacted with various governments abroad (especially in Asia and the Middle East); and how they sought to control and utilize international organizations such as the U.N. By exploring those issues that affected U.S. perceptions of its own role in the world, this project seeks to examine critically the strengths and shortcomings of U.S. foreign policy in recent years.

研究分野：アメリカ政治外交史

キーワード：現代アメリカ外交 20世紀アメリカ史

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究が、アメリカ外交の「視座」形成の過程を探ることを課題として掲げた背景には、近年のアメリカ外交史・外交論の成果を活かしつつ、より総合的なアメリカ外交理解につなげたいという問題意識が存在した。

アメリカ外交史・外交論研究では、近年二つの潮流が豊かな成果を生み出してきた。一つは「国際史」の流れから「グローバル・ヒストリー」へと引き継がれてきたもので、対象範囲をグローバルに設定し、時代を俯瞰する歴史的把握を目指すものである。もう一つは、ミクロな対象に焦点をあてながら、interdisciplinary もしくは trans-disciplinary な視点からそれらを捉えていく外交史研究である。このように活発化の見られるアメリカ外交史・外交論であるが、他方、アメリカ外交の「現在」を見すえながら、その背景にある思想的・イデオロギー的状况を分析する際に、「国際史」や trans-disciplinary なアプローチの成果が十分に活かされず、実証的研究に根ざすよりも、むしろ定式化された枠組みから議論が組み立てられる傾向が見られる。そのような問題意識から、アメリカ国内の政策論争から意図的に距離をとりつつ、アメリカ外交の「視座」がいかに形成されてきたかを、歴史学、国際政治学、国際法学や政治哲学など多様なディシプリンを用い、アジアや中東など多彩な地域研究の視点から検討することを本研究の課題として掲げた。

2. 研究の目的

本研究は、現代アメリカの対外政策の「視座」が形成される過程で基盤となってきた政治的・歴史的要因を総合的に把握し分析することを目的としている。帝国主義や植民地主義に対する歴史的な位置どりや、自ら主導する国際秩序や国際法と個々の外交政策との矛盾、そして、中東やアジア地域との関係を通じて構築される世界観など、アメリカ外交にはさまざまな両義性やパラドクスが内在した。それらの問題群を取り上げながら、アメリカ外交の「視座」がいかに構築され、継承されてきたかを分析し、長期的視点からのアメリカ外交論を構築する。政治学・歴史学・地域研究などを架橋し、現状分析とは距離を置くが、あくまでも現代のアメリカ外交を理解することを射程においた共同研究を目指した。

3. 研究の方法

本研究は、政治学、歴史学、国際法学、国際関係論、地域研究(アメリカ、アジア、中東)など多様なディシプリンをつなぎながらアメリカ外交の「視座」形成過程を探っていくことを目的としている。したがって、研究代表者および分担者は、問題意識を共有しながら、それぞれの研究課題に沿って研究を進めてきた。アメリカ外交への接近視角としては、「ポピュリズム」、「国際的な平和運動と人権外交」、「教育・地域研究推進策」、「対中東・イスラーム認識の変化」、「ウィルソン外交と国際主義」などが設定され、研究代表者と分担者がそれぞれの分野で文献の収集や聞き取り調査などに基づく研究を重ね、国内外の学会や学会誌に加え、一般向けの講演会や書物を通じてその成果を公表してきた。

4. 研究成果

(1) シンポジウム

研究プロジェクトの中盤にあたる2017年11月12日に東京大学アメリカ太平洋地域研究センター(CPAS)において、国際シンポジウムを開催した。これはセンター50周年記念事業を兼ねたもので、「アメリカは今 歴史から政治へ(Looking at the Present from the Past: Transformations of Political Culture in the United States)」をテーマとした。アメリカからナタリア・モリーナ教授(南カリフォルニア大学)、デイヴィッド・グリーンバーグ教授(ニュージャージー州立ラトガーズ大学)、そしてマイケル・アダス名誉教授(ニュージャージー州立ラトガーズ大学)を招聘し、それぞれ、「移民と公民権・市民権」、「保守思想」、「外交史と戦争」を題材に、アメリカの現在をどのように歴史的視座から捉え、分析することができるかを議論した。モリーナ教授は、民族的・人種的マイノリティのシティズンシップが問題視された歴史上の三つの事例を関連づけて紹介し、18世紀から今日まで、アメリカ社会ではいかに「人種をめぐる台本」が構築されてきたかをあつづけた。グリーンバーグ教授は、「古保守主義(パレオコンサーバティブ)」という概念を用い、20世紀への世紀転換期以降のアメリカの思想的系譜のうち、この古保守主義とポピュリズムとが変異を起こしながら「トランピズム」に流れ込んでいくことを指摘した。そして、アダス教授は、アメリカは他国の「国家建設」を支援できるといった誤った前提が、ベトナムのみならず、イラクやアフガニスタンへの干渉戦争を導いてアメリカの国際的地位を決定的に低下させ、国内における政治不信や国民の分断を招く結果となったと議論した。いずれも「アメリカ第一主義」を掲げるトランプ政権下のアメリカの国際社会における位置づけを、歴史的な視座から、さらに外交と内政とが交錯する部分に光を当てながら分析したものである。これらの報告には、東京大学大学院総合文化研究科から遠藤泰生教授、古城佳子教授、土屋和代准教授がコメントし、個々の論点に加え、トランプ時代のアメリカの状況を踏まえながら、思想史や国際関係論の観点からいかに歴史を語るということが可能かといった問題が議論された。

また、2017年3月には、研究分担者である古矢旬東京大学名誉教授が代表者をつとめる基盤研究(A)「東アジアにおけるアメリカ認識の相克 日中韓比較による総合的研究」との共催で、

「戦後世界秩序を振り返るー2017年から(Looking Back on the Postwar Era from 2017)」と題された国際シンポジウムが開催された。これはドナルド・J・トランプの大統領就任を受けての緊急シンポジウムの意味合いが強いものであった。シンポジウムでは、酒井啓子千葉大学教授が「米国に捨てられる中東 域内秩序の混乱(From al-Qaeda via ISIS to What? Another Anarchy in the Middle East without the US Leadership)」と題された基調報告を行い、デイヴィッド・ファーバー教授(カンザス大学)、ロブ・クルーズ教授(コトレヒト大学)、ケネス・ルオフ教授(ポートランド州立大学)を交えてパネルディスカッションを行った。アメリカのみならずグローバルに顕在化する「ポピュリズム」の台頭が、各国の外交政策および国際関係全般に及ぼす影響をめぐって活発な議論が交わされた。

(2) セミナーの開催

メンバー中心の研究会のほか、科研プロジェクトではいくつかの公開セミナーも開催している。2017年11月12日には、シンポジウムに先立ってセミナーが開催され、小田悠生中央大学准教授が“Contested Boundaries: Federal, State, and Local Immigration Powers and Immigrant Rights in the 21st Century,” プロジェクト・メンバーの三牧聖子高崎経済大学准教授が“Bound to Lead? A Critical Examination of the US-led International Order”と題する研究報告を行った。

また、2019年1月には、ジェイ・セクストン教授(ミズーリ大学)を招聘した。セクストン教授は、近著*A Nation Forged by Crisis: A New American History*をもとに大学院生・学部生を対象とするセミナーを行ったほか、アメリカ太平洋地域研究センター主催のセミナーでは“From Triumph to Crisis: An American Tradition”とのテーマで報告を行った。

(3) ジャーナルでの成果発表

研究成果はアメリカ太平洋地域研究センターの発行する『アメリカ太平洋地域研究』を中心に公刊されている。(1)に記したシンポジウムを特集とした第18号(2018年3月発行)では、David Greenberg, “An Intellectual History of Trumpism: Populism, Paleoconservatism, and the Ideas Behind a Republican Insurgency”, Natalia Molina, “Race and Different Citizenship in the 20th century United States: The Advantages of a Relational Approach,” Michael Adas, “Bad Wars, Failed Nation-Building, and the Retreat from Globalism”の三つの論文に加え、遠藤泰生「諸刃の剣としての歴史認識 トランプのアメリカを問い直す」、古城佳子「アメリカと自由主義国際秩序」、土屋和代「剥き出しの人種/性差別主義、対抗のスクリプト、変わりゆく世界のなかのトランプイズム」と題されたコメントが掲載されている。

またジェイ・セクストン教授からは、“American Steam in the Mid-Nineteenth Century Pacific: The Case of Pacific Mail”と題された論文が寄せられた(第20号、2020年3月発行)。この論文は、太平洋に対するアメリカの視野・視点が20世紀に向けてどのように形成されていったかを交易の視点から実証的に分析したものである。

(4) 個別の成果

これらの他に、研究代表者および分担者の参加したいくつかのシンポジウムや出版物を研究成果として提示しておきたい。

一つは、日本国際政治学会の季刊誌『国際政治』198号の特集「ウィルソン主義の一〇〇年」の発行である。2020年1月に刊行された本号は、研究代表者が編集責任者をつとめ、9本の論文を掲載している。20世紀アメリカ外交を語るときに避けて通れないウィルソン大統領の外交について、その評価、国際的な受容と変容、20世紀国際政治史にもった意味などを分析した論文が揃い、序章として編者が「ウィルソン主義」のもつ同時代性と原則の意義について議論した。

もう一つは、研究分担者である酒井啓子教授の主催した特別ワークショップ「イラン革命から40年 何が変わり、何が実現したか」(2019年2月10日開催)である。中東研究者を中心に組織されたシンポジウムであったが、研究代表者も討論者として参加した。言うまでもなくイラン革命前後の中東に対しアメリカの果たした役割は大きい。この経緯を中東各国・アメリカなど多角的な視点から吟味できたことは、アメリカ外交の「視座」を考える上で貴重な意味を持った。

三つ目は、トランプ政権を含む現代アメリカ外交をめぐる出版、研究報告、講演などである。研究代表者による報告、出版としては“The End of ‘American Exceptionalism’ and the Future of Global Order,”(同志社大学グローバルスタディーズ研究科,2019年), “Practicing American Studies in an ‘Age of Fracture’: In Search for a Context,” *Nanzan Review of American Studies* (2016)を挙げておきたい。また、三牧聖子准教授による“Watershed? The Historical Evolution of American Internationalism and its Prospect”(広島大学平和センター,2019年)古矢旬教授「トランプ主義の歴史的起源」(アメリカ政治研究会 2019年)酒井啓子教授「イスラエルよりアメリカ/イランが敵:後景化するパレスチナ」『現代思想』(2018)など、研究分担者による活発な執筆・講演活動も行われた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 189
2. 論文標題 戦後のイラクで何が対立しているか：関係性の結果としての宗派	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 17, 32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 45
2. 論文標題 中東における安全保障観の変質 脱国家主体と国家主体との相互作用から論じる	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際安全保障	6. 最初と最後の頁 35, 54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 46
2. 論文標題 イスラエルよりアメリカ/イランが敵：後景化するパレスチナ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 70, 77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 929
2. 論文標題 イラク「十月革命」が目指す未来：女性・若者が切り拓く非暴力運動のゆくえ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 146, 153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 1
2. 論文標題 「グローバル関係学」試論：「グローバルな危機」分析のための「関係学」を模索する	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新学術領域「グローバル関係学」オンライン・ペーパー・シリーズ	6. 最初と最後の頁 1, 30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 2
2. 論文標題 イラクにおける1991年インティファダの記憶と祖国防衛	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 千葉大学グローバル関係融合研究センターワーキングペーパー	6. 最初と最後の頁 1,28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nishizaki, Fumiko	4. 巻 38
2. 論文標題 Practicing American Studies in an "Age of Fracture": In Search of a Context	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Nanzan Review of American Studies	6. 最初と最後の頁 49,58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西崎文子	4. 巻 953
2. 論文標題 オバマ大統領広島訪問の歴史的意味	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 43,50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西崎文子	4. 巻 198
2. 論文標題 序論 「ウィルソン主義」の一〇〇年	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 1, 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古矢旬	4. 巻 653
2. 論文標題 「対テロ戦争」下の自由社会	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 38, 50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 3
2. 論文標題 ISIS and Sectarianism as a Result of a Meltdown of the Regional Orders in the Middle East	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 International Relations and Diplomacy	6. 最初と最後の頁 265, 278
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古矢旬	4. 巻 NA
2. 論文標題 トランプ時代の日米	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 WEB論座	6. 最初と最後の頁 1, 5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠原初枝	4. 巻 193
2. 論文標題 序章 平和的国際機構と歴史研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 1, 11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 篠原初枝	4. 巻 978
2. 論文標題 2018年度研究大会全大会批判	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 36, 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉田敦	4. 巻 452
2. 論文標題 9条の意義はどこにあるのか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 法学教室	6. 最初と最後の頁 39, 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三牧聖子	4. 巻 NA
2. 論文標題 「戦争を知らない世代」はどう戦争を記憶すべきか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ソウル大学日本研究所Reading Japanシリーズ	6. 最初と最後の頁 55, 74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三牧聖子	4. 巻 35
2. 論文標題 Non-Governmental Organizations and Origins of Asia-Pacific Regionalism: The Institute of Pacific Relations (IPR 1925-1961)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア太平洋討究	6. 最初と最後の頁 55, 70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三牧聖子	4. 巻 53
2. 論文標題 ヨーロッパ知識人がみた知と権力ーハンス・J・モーゲンソーとスタンリー・ホフマンのアメリカ知識人批判	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 年報アメリカ研究	6. 最初と最後の頁 99, 118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三牧聖子	4. 巻 19
2. 論文標題 書評 井口治夫『誤解された大統領ーフーヴァーと総合安全保障構想』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アメリカ太平洋研究	6. 最初と最後の頁 103, 108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計36件 (うち招待講演 20件 / うち国際学会 16件)

1. 発表者名 西崎文子
2. 発表標題 歴史の中のアメリカ外交ー「トランプ外交」の意味を考える
3. 学会等名 成蹊大学法学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西崎文子
2. 発表標題 トランプ時代を考える - 排外主義とどう戦うか
3. 学会等名 公益財団法人世界人権問題研究センター（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西崎文子
2. 発表標題 パネリスト デモクラシーと世界秩序 アメリカ
3. 学会等名 一般財団法人 日本国際政治学会年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 古矢旬
2. 発表標題 The Donald Trump Presidency in a Historical Perspective
3. 学会等名 中国社会科学院（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 アジアにおける「戦争違法化」の意味
3. 学会等名 グローバル・ガバナンス学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 リベラルな国際秩序とアメリカ
3. 学会等名 お茶の水大学ジェンダー研究所公開シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 Bound to Lead? A Critical Examination of the US-led International Order
3. 学会等名 東京大学アメリカ太平洋地域研究センター主催セミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 Toward Trans-generational Understanding of History
3. 学会等名 ソウル大学日本研究所 日本専門家セミナー（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 酒井啓子
2. 発表標題 Competing for Victimhood and Nationhood: Sectarianism in post-war Iraq as a legitimization of the right to rebel
3. 学会等名 Conference "Re-thinking Nationalism, Sectarianism, and Ethno-Religious Mobilisation in the Middle East, Oxford University (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 酒井啓子
2. 発表標題 Obstacles to Democratization in Post-war Iraq: Securitizing sectarian diversity
3. 学会等名 International Conference on From Democratic Transition to Democracy Learning, Rabat, Morocco (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西崎文子
2. 発表標題 地域研究の視座と文脈 米国研究からの問い
3. 学会等名 東京大学総合文化研究科地域文化研究専攻 第24回公開シンポジウム
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 西崎文子
2. 発表標題 Practicing American Studies in an "Age of Fracture"
3. 学会等名 南山大学アメリカ研究所 40周年記念シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 古矢旬
2. 発表標題 The Significance of the 2016 US Presidential Election for Contemporary Politics
3. 学会等名 中興大学(台湾)(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 古矢旬
2. 発表標題 US Global Hegemony under the Obama Presidency: A Retreat from Empire?
3. 学会等名 日本国際政治学会創設60周年記念研究大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 古矢旬
2. 発表標題 オバマとトランプの間ー米大統領選とポピュリズム
3. 学会等名 共同通信加盟社論説研究会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 Emerging Global Epistemic Community? The Possible Roles of Scholars in Northeast Asian Reconciliation
3. 学会等名 European Association for Japanese Studies（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 篠原初枝
2. 発表標題 International Norm Change: Outlawry of war in the interwar years
3. 学会等名 Fred Halliday Memorial Lecture, London School of Economics（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 酒井啓子
2. 発表標題 対「イスラーム国」戦闘を巡る「誰が愛国者か」の議論ーイラクにおける宗派対立
3. 学会等名 日本平和学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 酒井啓子
2. 発表標題 Transformation of "Source of the Fame" in the Eyes of Political Blocs in the Post-2003 Elections in Iraq
3. 学会等名 Middle East Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 酒井啓子
2. 発表標題 HISTORY OF IRAQ-JAPAN RELATION: ECONOMY IN MUTUAL LOVE, POLITICS IN ONE-SIDE LOVE
3. 学会等名 Japan-Iraq Joint Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 酒井啓子
2. 発表標題 Searching for Relational Studies on Global Crises in order to Establish a New Paradigm of Social/Human Science
3. 学会等名 World Social Science Forum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 酒井啓子
2. 発表標題 Understanding the transformation of power balance in the Middle East: from Sunni/Shites dichotomy to the competition for post-IS regional preponderance
3. 学会等名 AFMA conference, Beijing (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉田敦
2. 発表標題 Marginalization and Theatricalization of Politics
3. 学会等名 Annual Conference of International Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 篠原初枝
2. 発表標題 Who Killed the League?
3. 学会等名 The League of Nations and East Asia (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 篠原初枝
2. 発表標題 Culture and International Relations: Korean Wave in Japan
3. 学会等名 2018 Joint Cooperation on Trilateral Cooperation (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 古矢旬
2. 発表標題 歴史としてのトランプ政治
3. 学会等名 日本経済調査協議会 「資本主義」委員会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古矢旬
2. 発表標題 『トランプ』はどこからきたのか
3. 学会等名 関西アメリカ史研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古矢旬
2. 発表標題 トランプ主義の歴史的起源
3. 学会等名 アメリカ政治研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 大戦間期の戦争違法化と安達峰一郎
3. 学会等名 国際法協会 日本支部
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 Watershed? The Historical Evolution of American Internationalism and the Prospect
3. 学会等名 225th Research Seminar, The Center for Peace, Hiroshima (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 Japanese perspectives
3. 学会等名 The Geopolitical Future of Northeast Asia? (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 Jane Addams and Her Cosmopolitan Ethics
3. 学会等名 Symposium: The Living Legacy of First World War (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三牧聖子
2. 発表標題 East Asian Case
3. 学会等名 Symposium: The Role of Culture and Memory in International Relations: Japanese and Italian Perspectives (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西崎文子
2. 発表標題 『トランプ外交』とは何か ―歴史からの問い
3. 学会等名 島根県立大学総合政策学会第35回特別講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西崎文子
2. 発表標題 The End of 'American Exceptionalism' and the Future of Global Order
3. 学会等名 "What is Global Studies? Pursuing Conviviality and Constructing New Civilizations"（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西崎文子
2. 発表標題 地域研究とグローバルスタディーズ ―アメリカ研究者の視点から
3. 学会等名 東京大学大学院総合文化研究科 グローバルスタディーズ・セミナー
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計21件

1. 著者名 三牧聖子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 志學社	5. 総ページ数 330(35-52)
3. 書名 山本武彦・玉井雅隆編 『現代国際関係学叢書(第1巻) 国際組織・国際制度』	

1. 著者名 三牧聖子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 278(167-184)
3. 書名 菅英輝・松井康弘・大矢根聡編『グローバル・ガバナンス学I 理論・歴史・規範』	

1. 著者名 三牧聖子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Palgrave MacMillan	5. 総ページ数 879(741-755)
3. 書名 Berber Bevernage, Nico Wouters eds., The Palgrave Handbook of State-Sponsored History After 1945	

1. 著者名 篠原初枝	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 356(266-282)
3. 書名 “International War and World War I: A Pivotal Turn,” in Thomas W. Zeiler, David K. Ekbladh and Benjamin C. Montoya, eds., Beyond 1917: The United States and the Global Legacies of the Great War	

1. 著者名 篠原初枝	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 395(315-334)
3. 書名 “Drift toward an Empire? The Trajectory of American Reformers in the Cold War,” in Martti Koskeniemi, Walter Rech, and Manuel Jimenez Fonseca, eds., International Law and Empire: Historical Explorations	

1. 著者名 酒井啓子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 224
3. 書名 9.11後の現代史	

1. 著者名 西崎文子、武内進一、編著	4. 発行年 2016年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 177(iii-xiv)
3. 書名 紛争・対立・暴力 世界の地域から考える	

1. 著者名 西崎文子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 左右社	5. 総ページ数 334(302 - 318)
3. 書名 桐光学園中学校・高等学校(編) 高校生と考える世界とつながる生き方	

1. 著者名 西崎文子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 404(31-72, 279-324)
3. 書名 佐々木卓也(編) 戦後アメリカ外交史 第三版	

1. 著者名 西崎文子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 中央公論社	5. 総ページ数 592(548-564)
3. 書名 ジョージ・ケナン著 ジョージ・ケナン回顧録 III	

1. 著者名 篠原初枝	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 263(163-192)
3. 書名 「国際連盟における安達峰一郎：報告者の役割」柳原正治・篠原初枝編『安達峰一郎：日本の外交官から世界の裁判官へ』所収	

1. 著者名 三牧聖子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 296(127-146)
3. 書名 柳原正治・篠原初枝編『安達峰一郎：日本の外交官から世界の裁判官へ』	

1. 著者名 三牧聖子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 302(198-219)
3. 書名 菅英輝編『冷戦変容と歴史認識』	

1. 著者名 三牧聖子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 308(237-258)
3. 書名 塩出浩之編『公論と交際の東アジア近代』	

1. 著者名 酒井啓子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 みすず書房	5. 総ページ数 288頁
3. 書名 移ろう中東、変わる日本：2012 - 2015	

1. 著者名 三牧聖子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Roman and Littlefield	5. 総ページ数 270(93-110)
3. 書名 Modern Japanese Political Thought and International Relations	

1. 著者名 三牧聖子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋出版	5. 総ページ数 336(75-91)
3. 書名 菅英輝編『競合する歴史認識と歴史和解』	

1. 著者名 三牧聖子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 524(75-399)
3. 書名 柳原正治編『世界万国の平和を期して—安達峰一郎著作選』	

1. 著者名 Koizumi, Junko	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Leipziger Universitaetsvlg	5. 総ページ数 523
3. 書名 In Search of Other Worlds, Essays towards a Cross-Regional History of Area Studies, edited by K. Naumann et. al.	

1. 著者名 杉田敦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 224
3. 書名 デモクラシーとセキュリティー：グローバル化時代の政治を問い直す	

1. 著者名 酒井啓子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 352
3. 書名 山口明彦、酒井啓子他「クルド人を知るための55章」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	三牧 聖子 (Mimaki Seiko) (60579019)	高崎経済大学・経済学部・准教授 (22301)	
研究分担者	古矢 旬 (Furuya Jun) (90091488)	東京大学・大学院総合文化研究科・名誉教授 (12601)	
研究分担者	酒井 啓子 (Sakai Keiko) (40401442)	千葉大学・大学院社会科学研究院・教授 (12501)	
研究分担者	篠原 初枝 (Shinohara Hatsue) (30257274)	早稲田大学・国際学術院(アジア太平洋研究科)・教授 (32689)	
研究分担者	小泉 順子 (Koizumi Junko) (70234672)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・教授 (14301)	
研究分担者	杉田 敦 (Sugita Atsushi) (30154470)	法政大学・法学部・教授 (32675)	